

1. 授業のねらい・概要

近年、世界中でモノ、カネ、ヒト等が国境を越えて活発に移動するというグローバル化の時代を迎えているが、日本企業の海外進出や訪日観光客の増加等、日本を取り巻く身近な環境でもそのような動きが見られる。他方、世界各国において、グローバル化の負の側面が強調され、それに反抗するかのように、内向き志向の保護主義の動きが台頭してきている事実も無視できない。将来、ビジネス界で活躍すると期待される学生諸君は、このようなトレンドに乗り遅れないように、我々に与えるグローバル化の良い影響と悪い影響について、いずれも冷静に見つめることが求められる。そこで、本講義は、あくまでもその一助として、国際的なビジネス活動に関連性の高いテーマに焦点を絞りつつ、後期Bでは、モノの側面からグローバル化の実態を捉える国際貿易の基礎知識を学修する。

2. 授業の進め方

学生諸君が興味を持ってくれるような講義とするべく、映像視聴を取り入れたり、担当教員の実務・海外経験を話に交えたりする等の工夫を凝らす。さらに、より主体的な姿勢がより良い理解に繋がるので、日頃から、メディアで世界の経済・社会情勢をフォローしておくことを強く薦める。また、数回、受講生に小課題を課すことで、理解度を確認することとしたい。

3. 授業計画

1. インTRODakション	9. 貿易をめぐる国際的枠組み① (WTO 体制)
2. 貿易とは何か	10. 貿易をめぐる国際的枠組み② (地域統合と FTA)
3. 貿易と経済・社会① (GDP との関係)	11. 日本経済と貿易の歩み① (高度成長期と石油危機)
4. 貿易と経済・社会② (生活や金融との関係)	12. 日本経済と貿易の歩み② (国際分業の進展)
5. 貿易と国際収支・為替レート① (国際収支の仕組み)	13. 貿易をめぐる新しい動き
6. 貿易と国際収支・為替レート② (為替レートの変動)	14. DVD 視聴 (コーヒー貿易の実態)
7. 貿易の理論① (比較優位と貿易政策)	15. 本講義の総括
8. 貿易の理論② (貿易と企業)	

4. 到達目標

ビジネス活動に深く関わる国際貿易の観点から、グローバル化の実態を体系的に理解することで、それを捉えるための複眼的思考を養うことを目標とする。

5. 準備学修に必要な時間、またはそれに準じる程度の具体的な学修内容

教科書の事前熟読 (30～40 分程度)。

6. 成績評価の方法・基準

平常点 (30%) 及び期末試験 (70%) にて、総合的に評価する。

7. テキスト・参考文献

教科書は、小峰隆夫・村田啓子 (著)『貿易の知識<第 3 版>』(日本経済新聞出版社、830 円＋税)を用いるので、受講生は必ず購入すること。そのほか、補足資料を随時配布する。参考文献は、講義の中で適宜紹介する。

8. 受講上の留意事項

「グローバル化と国際社会A」を履修していることが望ましいが、必須条件ではない。講義中は、私語は慎み、解説を聞くだけでなく、補足情報もノートすること。平常点が著しく悪い場合は、期末試験を受験できないことがある。また、留学生には、経済学の基礎文献を読める程度の日本語能力が求められる。